

測り知れない年月に耐えた、波模様の砂の痕跡

五島列島を形成した地殻の堆積層は、五島層群と呼ばれる地層です。堆積層は、日本列島が1,600万年～1,800万年前にアジア大陸から分かれた際に形成されました。土砂や小石が複数層にわたって堆積し、それが圧縮されたことで五島層群が形作られました。

水中で

形成段階にあった五島層群は、その一部が浅瀬の水底に沈んでいました。長年にわたって堆積した土砂層から圧縮を受けたことにより、漣痕にこのような模様が生じたと考えられています。

この辺りの岩石は、かつては水平な地層の一部でした。土砂や砂利が長年かけて堆積してできたその地層は、地殻変動が起きた際に複数層にわたって下向きに湾曲しました。やがて表層部が風や水による侵食で裂かれ、下層部が露出するようになりました。露出した下層部では、土砂の波模様の痕跡を見ることができます。

鑑賞するなら今のうち

白良ヶ浜の漣痕は1959年、長崎県により天然記念物に指定されました。しかし、漣痕は波風に曝されて数十年が経過しており、表面の特徴的な外観が次第に損なわれ、波模様も消失し始めています。